

いちご病害虫情報第6号(11月)

平成27年11月20日
栃木県農業環境指導センター

単位: %

		炭疽病	灰色かび病	うどんこ病	萎黄病	アブラムシ類	ハダニ類	コナジラミ類	ハスモンヨトウ幼虫	アザミウマ類(花)	備考
ほ場率	発生ほ場数	13	0	7	11	7	19	21	5	5	総調査ほ場数: 66か所 総調査株数: 1,650株 花調査ほ場数: 66か所 総調査花数: 3,300花 (調査株数 25株 (調査花数 50花)) ※ 平年比 = (本年平均値 / 平年値) × 100 ※ アザミウマ類の調査は花調査かつ平年値は過去4年の値
	本年平均値	19.7	0.0	10.6	16.7	10.6	28.8	31.8	7.6	7.6	
	平年値	7.4	0.1	26.5	8.0	16.2	32.6	33.0	9.0	32.4	
	平年比	266.2	0.0	40.0	208.8	65.4	88.3	96.4	84.4	23.5	
	発生程度	多	少	やや少	多	平年並	平年並	平年並	平年並	やや少	
株率	発生株数	0	0	31	4	4	184	28	2	12	○ 今月の病害虫発生状況 ○ ・一部のほ場で炭疽病、萎黄病の発生が認められます。 ・うどんこ病の発生はやや少ない状況です。 ・ハダニ類の発生は平年並ですが、一部で発生株率の高いほ場が見られます。
	本年平均値	0.0	0.0	1.9	0.2	0.2	11.2	1.7	0.1	0.2	
	平年値	0.2	0.0	5.6	0.2	3.1	9.7	3.5	0.6	1.9	
	平年比	0.0	-	33.9	100.0	6.5	115.5	48.6	16.7	10.5	
	発生程度	少	少	やや少	平年並	少	平年並	やや少	少	少	
概 評	平年並	少	やや少	やや多	やや少	平年並	平年並	やや少	やや少		

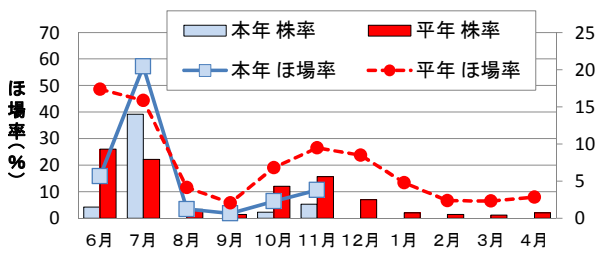


図1 うどんこ病発生ほ場率・株率

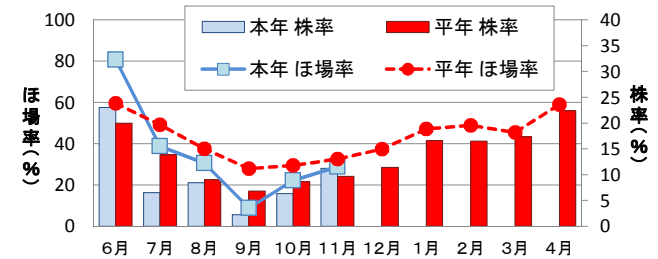


図2 ハダニ類発生ほ場率・株率

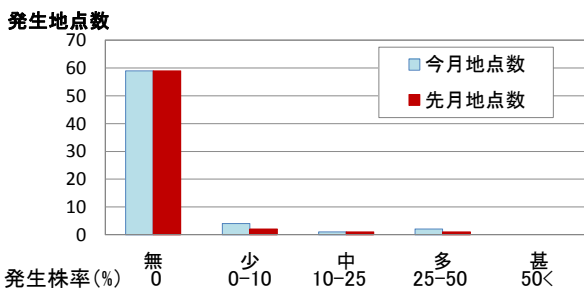


図3 発生程度別の地点数(うどんこ病)

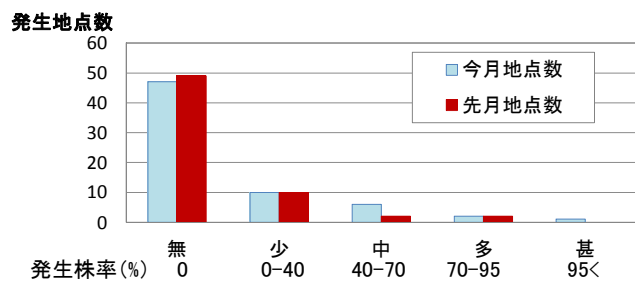


図4 発生程度別の地点数(ハダニ類)

○うどんこ病対策

- ・軟弱徒長すると発生が多くなるので、適正な温度管理やかん水を行う。
- ・発生を予防するため、硫黄剤でくん煙する。
- ・予防を主体にフルピカフロアブルやタフパール等を散布する。
- ・発生が見られたらサンリット水和剤やカリグリーン等を散布する。

○ハダニ対策

- ・ほ場をこまめに観察し、増殖する前に防除を行う。
- ・化学農薬に対する感受性低下が著しいため、必ずローテーション散布を行うとともに、抵抗性が発達しない気門封鎖剤や天敵製剤を活用する。
- ・発生が見られたら葉裏にもよくかかるように気門封鎖剤を複数回散布する。
- ※ 当センターHPIに「園芸作物に発生したナミハダニの薬剤感受性検定結果」を掲載中。



写真 ナミハダニを捕食する
ミヤコカブリダニ

○今月の技術情報(技術指導班)○(11月)

- ・現在、保温開始となり、収穫出荷も順調に行われています。
- ・生育は、8月中旬までの高温、下旬からの低温と日照不足、さらに、台風18号による大雨の影響によりばらつきが見られ、やや遅れていましたが、10月以降は天候に恵まれ、株は充実し徐々に回復しています。
- ・育苗期から一部で炭疽病の発生が見られ、保温開始後も萎れや枯死株が見られますので、見つけ次第除去しましょう。
- ・引き続きハダニ類、コナジラミ等の発生が多いほ場が見られます。これらの害虫の防除は収穫が本格化する前に徹底して行き、被害の拡大を防いで下さい。
- 特に、天敵を導入するほ場では、その効果を過信することなく、導入前の防除を徹底するとともに、使用する農薬については天敵に影響の少ない薬剤を使用するようにしましょう。
- ・今後は気温の低下や降雨等により低温多湿状態となりやすく、灰色かび病等の発生も懸念されます。ハウス内の湿度上昇を防止するため、適切な温湿度管理を行って下さい。